



日耳鼻医会 FAXニュース

平成27年6月5日発行 第227号

◇平成27年度定時代議員会・総会予告

日時：平成27年6月28日 (13:00～17:00)

会場：ベルサール八重洲(東京駅近く)

(中央区八重洲1-3-7八重洲ファーストフィナンシャルビル2F・3F)

会次第

第1部 代議員会・総会(13:00～14:30)2階 Room E

1. 開会 物故者に黙祷

2. 理事長挨拶

3. 報告 平成26年度庶務報告及び事業報告

4. 議事

第1号議案 平成26年度収入・支出決算について承認を求める件

第2号議案 平成27年度事業計画(案)について承認を求める件

第3号議案 平成27年度収入・支出予算(案)について承認を求める件

第4号議案 組織改編について承認を求める件

5. 第40回臨床家フォーラム担当挨拶

6. 第41回臨床家フォーラム担当挨拶

7. その他

8. 閉会

第2部 講演「おとなの難聴」(14:30～15:30)

新倉敷耳鼻咽喉科クリニック 福島邦博先生

第3部 懇親パーティ(16:00～17:00) 2階 Room D

(懇親会会費 9000円)

議案書は中旬に発送予定。

※日本耳鼻咽喉科医会第40回臨床家フォーラム※

「かごしまフォーラム2015」登録受付中 教育、文化そして『黒』の県、鹿児島へ

期日：7月19日(日)20日(月・祝)

会場：鹿児島県市町村自治会館

レムブラントホテル鹿児島

多数のご来鹿をお待ちしております。

準備の都合上、できるだけ事前登録にご協力ください。

初日・2日目とも日本医師会・鹿児島県医師会生涯教育講座となっております。



■新薬選ぶ患者、後発薬との差額負担

医療費抑制へ政府検討 製薬業界の反発必至
政府は価格の高い特許切れの新薬を患者が選ぶ場合、自己負担を増やす仕組みを検討する。6月末にまとめる財政健全化計画で歳出抑制策として盛り込む考え。

患者が安い後発薬を選ぶよう促し、医療費を抑える狙いがある。ただ、新薬を開発する製薬業界が反発するのは確実で、調整は難航しそう。政府が5月19日に開く経済財政諮問会議で、民間議員が歳出抑制策として提言する。提言を踏まえ政府は健全化計画に盛り込む。その後、厚生労働省が制度設計を詰める。

日本の後発薬の普及率は2013年時点で46.9%。政府は17年度末に6割とする目標を掲げている。民間議員は目標を8～9割に引き上げるよう提言する。18年度から新薬を使う患者の負担を増やす仕組みを導入し、普及率を高める。現在、薬代の患者負担は原則3割(高齢者は1～2割)で、残りは税や保険料を財源とする公的保険で賄っている。例えば3000円の後発薬は2100円を保険で賄い、患者負担は900円。効能が同じ4000円の新薬は保険で2800円、患者負担は1200円。

新制度では4000円の新薬を選んだ場合、保険給付は後発薬と同じ2100円とし、1900円を患者負担とする。新薬の患者負担が今より重くなるため、安価な後発薬を選ぶ患者が増える予想している。仮に後発薬の普及率が6割から10割に高まれば、国と地方で約0.6兆円の歳出の削減効果が見込める。ただ後発薬が普及すると、新薬を開発する製薬会社の収益は圧迫される。政府内には「新薬の開発意欲が薄れる」と見直しに慎重な声もあり、実現するかは不透明な部分がある。

■医療保険改革法が成立

負担幅広い世代に求める 国保は都道府県に移管
医療保険制度改革の関連法は5月27日の参院本会議で、自民、公明両党と維新の党、次世代の党などの賛成多数で可決、成立。高齢化が進み、医療費が膨らむ中、制度を持続させるために幅広い世代の負担を見直す内容。本年度から所得の高い現役世代の保険料を増やし、2016年度には入院時の食費を引き上げ、紹介状なしで大病院を受診した場合には追加負担を求める。

赤字構造を抱える国保は18年度に市町村から都道府県に運営を移管して財政基盤を安定させる。

大企業社員や公務員など所得の高い現役世代の保険料負担が増えるのは、75歳以上の医療費を支える支援金の計算方法を変更するため。本年度から所得に応じた「総報酬割」で算出する割合を広げ、17年度に全面的に

導入する。総報酬割を全面導入すると公費が浮き、この一部を財源にするなどして17年度以降は国保に毎年3400億円を投入する。

■[かかりつけ医]次期改定でさらなる評価を

諮問会議で塩崎厚労相

塩崎厚労相は5月26日、政府の経済財政諮問会議に出席し、政府が今夏までに策定する財政健全化計画に向けた厚生労働省の方針を示した。医療分野では、2016年度診療報酬改定で「かかりつけ医」のさらなる評価を検討することなどを盛り込んだ。

「重点改革事項」として▽保険者が本来の機能を発揮し、国民が自ら取り組む健康社会の実現▽地域包括ケアシステムの構築▽薬局の在り方を見直し、医薬品の使用を適正化▽後発医薬品の使用の飛躍的加速化—の4点を挙げた。

このうち、地域包括ケアシステム構築のメニューとして、「かかりつけ医」のさらなる普及に加え、地域医療構想の策定支援や、医療費適正化計画の前倒しと加速化などを通じた医療提供体制の確立や地域差の縮小などを盛り込んだ。このほか「患者のための薬局ビジョン」を年内に公表し、全ての薬局を「患者本位のかかりつけ薬局に再編」する方針も示した。

耳鼻咽喉科領域に特化したスペシャリティファーマ
CEOLIA セオリアファーマ株式会社
Leading in ENT

(薬価基準記載)

処方せん医薬品※ セフェム系抗生物質製剤

ベストロン®耳鼻科用1%

局所外用セフェム系塩酸塩

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

(製造販売元) 千寿製薬株式会社 大阪府中央区平野町二丁目5番8号
(発売元(資料請求先)) セオリアファーマ株式会社 東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号
(販売) 武田薬品工業株式会社 大阪府中央区道修町四丁目1番1号

◎効能・効果、用法・用量、禁忌(原則禁忌を含む)、
使用上の注意等については添付文書をご参照ください。 2015年4月

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp
当会への要望・意見・相談をお寄せ下さい